

戴 淑鳳 (Dai Shufeng) 北京大学第一臨床医学院小児科教授

北京大学第一臨床医学院小児科教授、発達・教育心理学修士。中国優性科学協会、優生優育協会理事、『中華中西医雑誌』・『中国生育健康』・『全科医学雑誌』などの雑誌の常任編集委員、中国未来研究会教育分会主任委員、台湾奇徳爾脳力開発教学連盟専門家、中国関心下一代（次世代を考える）工作委員会早期教育プロジェクト首席専門家、北京児童心理協会理事、北京市科研プロジェクト審議専門家組織評議委員。北京東方聖童児童発達研究センター創始者。

1966-1980年、北京大学医院にて産婦人科医、教育・研究活動に従事。1981年、北京大学病院が設立した学際的・国際的なネットワークを持つ周産期-新生児専攻のパイオニアである。1981年に新生児関連学科で1年間の研修を受け、新生児専門医・教育・研究及び乳幼児の発達の追跡指導に従事した。

1984年、アメリカの心理学者ブラゼルトン博士 (Dr. Brazelton) に師事し、新生児の神経行動の発達を研究する。その後、発達・教育心理学諸分野の研修を進め、国内外の児童心理行動問題に関する研究会やシンポジウムに参加した。主な著書には、『中国子ども早期教養』叢書、『SOS 父母を救え，子どもを救え』など。

子どもの知覚発達障害と家庭教育環境づくり

乳幼児の感覚・知覚は五感と環境が互いに影響し合って、徐々に発達し成熟してくるものである。故に乳幼児は常に知覚のずれの中で生活している。子どもの知覚発達とレベルは環境の質と密接に関連している。家庭教育環境は、知覚発達障害の主な要因となり、子どもの心理行動や落ちこぼれを引き起こす重要な原因となる。

従って、以下に述べる家庭環境と、そうした要因を考慮した家庭環境づくりが大切になってくるのである。

1. 妊娠前の家庭環境づくり

- 最も良い健康状態の時に妊娠する
- 最も良い心理状態の時に妊娠する
- 最適の年齢で妊娠する
- 経済状況が許す時に妊娠する

2. 妊娠期の胎教環境づくり

- 母親学級を受け、親になる準備を整えて出産に挑む
- 科学的に、体系的に胎教を行う
- 胎児にバランスのよい栄養を与える
- 赤ちゃんに有害な環境は、大小にかかわらず極力避ける（例えばウイルス・放射線・化学薬品・酒・煙草・化学毒物など）

3. 成長の臨界期（0-3才）の家庭環境づくり

- ハード面：よい住宅環境
 - 十分な活動空間
- ソフト面：和やかな家庭の雰囲気
 - 科学的な教育
 - 家庭内における様々な役割
 - 自由にできる空間